

勉強会 報告書

令和 4 年福島県沖地震と コロナ禍の活動の課題について

開催日：2022 年 6 月 18 日（土）

記録： かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

作成： かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

2022 年 12 月 20 日発行 不許複製・禁無断転載

1. はじめに

2022年3月16日、福島県沖を震源とする地震(震度6強)が発生し、特に宮城県と福島県で多くの建物被害が出ました。東北新幹線の脱線事故(福島駅～白石蔵王駅間)によって東北・山形・秋田新幹線が運休し、広範囲に影響があったと言えます。

今回、定例総会終了後に、相馬市の民間ボランティアチーム「たすけっと相馬」のメンバーとオンラインでつなぎ、最新の状況をお伝えいただきました。相馬市の被災の状況、復旧の状況を知るとともに、コロナ禍での活動の課題・工夫についても伺い、参加者と共有・勉強しました。

[「たすけっと相馬」](#)について

たすけっと相馬とは、2022年3月16日の福島県沖地震をうけ、相馬市の団体と市民が中心となって発足した「災害サポートボランティアチーム」です。相馬市内にある民家を1軒1軒訪問して被害状況を聞き取り、状況やニーズにあわせて復旧支援をおこなっています。

ニーズの内容は主に、地震で被害のあった屋根の応急処置や、倒れてしまったブロック塀の片付け・撤去作業、災害ごみの片付け・搬出のお手伝いです。日本カーシェアリング協会と連携して、災害ゴミの運搬に必要な軽トラックの貸し出しもおこなっています。

運営団体:

- ◆ 復興支援センターMIRAI
- ◆ 合同会社 WA-WA
- ◆ 一般社団法人口ハス南阿蘇たすけあい
- ◆ 福島大学災害ボランティアセンター
- ◆ 市民有志

kfopでは、4月16-17日と4月24日に「たすけっと相馬」のコーディネートによる災害ボランティア活動に参加しました。4月23日には南相馬市でも活動しました。勉強会の後半では、この福島150便と152便について報告しました。

2. 開催概要

(1) 日時・式次第

開催日時 2022年6月18日(土)15:00～16:30

会場 Zoomによるオンライン参加+横浜会場
神奈川県横浜市南区南太田 1-7-20 男女共同参画センター 横浜南

登壇者 「たすけっと相馬」瀬庭大輔さん、高橋あゆみさん(復興支援センターMIRAI)

kfop 東、平野

主催 かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)

式次第

〔主旨説明〕.....	15:00～15:05
進行:かながわ「福島応援」プロジェクト	代表 渡辺孝彦
〔相馬市の状況とコロナ禍の活動について〕.....	15:05～15:25
たすけっと相馬	瀬庭大輔さん
	高橋あゆみさん
〔質疑応答〕.....	15:25～15:45
〔kfop活動報告〕.....	15:45～16:05
福島 150 便	東
福島 152 便	平野
〔全体質疑応答・意見交換〕.....	16:05～16:30

(2) 参加者実績

勉強会 オンライン 12 人
 横浜会場 9 人

3. 相馬市の状況とコロナ禍での活動（概略）

市民が中心となり「たすけっと相馬」が立ち上がった経緯について。地震発生後、相馬市社協災害ボランティアセンターが一般ボランティアの受け入れを開始したが「相馬市民で新型コロナワクチン 3 回接種済みの人」に限定されていた。実際には、相馬市全体が被災したため市民のボランティアも集まりにくく、困っていた。そのような状況で、相双地区で復旧支援ボランティア活動をしている「相双ボランティア」から相馬に支援に行きたい旨の連絡が瀬庭さんのところにあつたので、瀬庭さんが受け入れをし、知り合いなどに声を掛け、助けを必要としているお宅を探して、3 月 19～20 日の 3 連休にボランティアに入ってもらった。その後もボランティア同士のつながりで「支援に行けるよ」という声が広がり、「ロハス南阿蘇たすけあい」が入ってくれることになり、形ができあがってきた。それとは別に、高橋あゆみさんも福島大学の学生など若いメンバーで沿岸部を中心に被災状況の聞き取りを進めていた。瀬庭さんとしては、ひとりでは困っている人の声を拾いきれないでいた。また高橋さんも、聞き取った困りごとを解決するボランティアがいない状況だったので、一緒に組めば困りごとの解決にスムーズにつながられるのではないかと考え、「たすけっと相馬」を立ち上げた。

被災の状況について。この前年(2021 年)にも震度 6 強の大きな地震があつたが、住宅の被害は今回のほうが大きい。2021 年の地震では罹災証明の受付が 4,000 件、今年は 6 月 16 日現在 8,123 件で 2 倍近い。全壊、大規模半壊、中規模半壊、半壊の件数もおよそ 6～7 倍あり、現在は申請に基づく一次調査が終わり、罹災証明が発行されている。認定に不服があればこれから二次調査が入るといった状況。

相馬市内の被害状況の聞き取りから、家屋の片づけ、倒壊の危険があるブロック塀の解体、屋根の応急処置を 3 本柱としてサポートしてきた。3 か月間で 1 軒 1 軒訪問して聞き取った案件や、電話をいただいた案件があり、およそ 330 件の聞き取りを実施した。そのうち実際に依頼があつたのが約 200 件(屋根が 80 件、家屋片づけと災害ごみの搬出が 90 件、ブロック塀が 30 件)。現在は残り 20 数件(屋根と家財搬出)あるが、6 月中にはいったん落ち着き見込み。聞き取りはまだ実施しているが、6 月に入ってから、雨漏りしている、自身で屋根の応急処置をしたが風でシートがはがれてしまったという声が目立ってきている。今後の梅雨入りで屋根の対応は出てくると思う。台風の心配もあり、9～10 月ぐらゐまでは続くのではないかと見ている。

緊急対応は落ち着きつつあるとはいえ、ガラスが割れたままのお宅があつたり、修理が入るのに時間がかかる、諦めてそのままにしているというお宅があつたりする。今後の生活再建で格差が生じるのではないかと考えている。

今後の見通しについて。相馬市の災害ごみの受け入れが当初 5 月末までの予定だったので、たすけっと相馬でも 5 月末までできるだけ片付けてその後は個別で対応する予定でいたが、受け入れが 6 月末まで延びたので、活動予定も延長した。7 月以降については未定。ロハス南阿蘇さんは屋根の案件が落ち着くまで継続して対応していただき、それ以降は他の専門チームとも連携して対応する予定。

行政としてボランティア募集という形で動く見込みはないと思われる。公費による解体が少しずつ決まってきており、家財の運び出しなど、1 か月目、2 か月目、3 か月目とどんどん状況が変わってきているが、行政での対応は難しい。危険なブロック塀については公費解体制度で解体することを行政が検討している段階で、まだどうなるかわからないので、すでに依頼を受けている分についてはこれまでどおりこなしていく。

相馬市社協災害ボランティアセンターは 4 月末で締め切つたが、約 60 件対応したと聞いているが、支援対象であるのにもかかわらず情報が届いていなかった、まったく知らなかったという方も多くいらっしゃる。現在もまだ、高齢世帯と連絡を取ってお手伝いに入らせてもらっている。

質疑応答

- Q 最初は他の地域にボランティアに行くつもりでいたが、仲間から相馬地域の被害状況がひどいと聞いて相馬市と南相馬市に行きました。なぜ被害状況があまり伝わってこなかったのか疑問に感じました。
- A 情報発信は大切だと思って個人の SNS アカウントで発信してはいましたが、SNS だと個人間で情報が伝わるので、メディアに訴えかける必要を今回は感じました。一方で、SNS を見て初めて来たという方もいたのでそれも大事ではありますが、日本全体に伝えるためにはテレビ・新聞での発信が必要だと感じます。ただ、そこに力を注ぐことがなかなかできず、目の前のことをこなすので精一杯でした。
- Q コロナ禍でもあり、社協でのボランティア募集も限定されていたので、ボランティアに行きにくい状況がありました。市民のボランティアも十分には集まらなかったようですが、コロナ禍での活動について工夫したことはありますか。
- A 昨年は市外からのボランティア受け入れはできる状況ではありませんでしたが、今年は状況若干変わり、ワクチン接種が進んで重症化リスクも下がった点が大きかったです。相馬市は3回接種への対応が早かったこともあります。相馬市では市外からの受け入れをしない方針でしたが、そんなことは言っていない状況でした。ボランティアに来る人も、ワクチン接種、PCR検査や抗原検査などしっかりと対策していただき、依頼者さんがコロナウイルスに感染した事例もありませんでした。
- Q 聞き取りをする中で、ボランティアが来ることでコロナに感染するのを被災者が心配していたケースはありましたか。
- A そういう声はほとんど聞かれませんでした。まったく気にされていないわけではありませんが、それ以上に家屋の被害がひどく、感染の危険性よりも倒壊などの危険性のほうが大きい状況だったと思います。
- Q お困りの方はご高齢の独り住まいの世帯が多いように感じましたが、社協でニーズの聞き取りの対象にはならなかったのですか。
- A 相馬市では社協がニーズの取りまとめをしますが、聞き取りや調査は当初、民生委員に依頼していました。民生委員も年配の方が多く、動ける方とそうでない方がいます。またコロナ禍になってからは民生委員の通常の活動も直接訪問ではなく電話でおこなっていた状況もあり、拾いきれなかったものもあったのだと思います。
- Q 相馬中村神社も被害があったと聞きましたが、多くの方が被災された中でも相馬野馬追は通常どおり参加されるのでしょうか。
- A 今年は野馬追が通常開催される予定です。中村神社では騎馬武者が通る大手門が被害を受けましたが、その部分は解体して対応する話が進んでいます。今年は当主の孫が初陣となるため野馬追に向けて盛り上がっています。
- Q 災害が起こったときは、ある程度は地元の人たちでなんとかしなければならないが、地元の人にボランティアへの関心を持ってもらうには、何が必要と思いますか。
- A これから日本のどこが被災地になるかわからない状況で、教育は大事だと感じています。今回、ゴールデンウィークに中学生にもボランティア活動に参加してもらい、できることを探してもらう予定でした。全国から相馬にボランティアに来てくれたことも知ってもらい、今後お礼状の作成などにも参加してもらいたいと思っています。

大学生には聞き取りの部分で非常に力になってもらいました。高齢者との雑談の中で細かいニーズを拾ってくれて、しっかり支援につないでいただきました。大学や他のところからも資材の支援をい

ただき現場で役立ちました。

Q ニーズを聞き取る中で、直接回った先や、新聞やクチコミでお問い合わせいただいた方など、いろいろな形があったと思いますが、だいたいどのような内訳でしたか。

A 大学生を中心とする聞き取りでは約 120 件、残りは電話です。瀬庭さんに直接相談が来たものもあれば、市や社協からのご紹介もありました。他には、お手伝いしたお宅から、近所のお宅も大変そうだから／友だちが大変そうだから行って見て、というクチコミでのご紹介もありました。大工さんに修理を頼んだが年末までいっぱいだから、いったん「たすけっと」に相談してみたと言われてたという方も多くいらっしゃいました。

Q 最後に、県外のボランティアに伝えたいことがあればお願いします。

A 相馬に来ていただいたり気に掛けていただいたりしたことに、本当に感謝しかありません。私たちの力にもなり、被災者へのサポートができています。お手伝いする先は高齢者の方がほとんどで、新しい生活に向けてようやくスタートを切れた方もいらっしゃり、皆さんに助けていただきました。

ボランティアに来てくれた人が SNS やホームページで状況を発信してくれたに感謝しています。私たちは現場のことでいっぱいなので、情報発信という意味でも感謝しています。

4. kfop 活動報告

福島 150 便

4 月 16～17 日(相馬市)

相馬市の被害状況が大きいことは SNS などを見て知っていたが、県外からボランティアに行くのは難しい状況だったため様子を見ていた。その中で、以前に kfop の講演会にご登壇いただいた小幡広宣さん、「そうま食べる通信」編集部メンバーだった瀨庭大輔さんがボランティアを受け入れている様子を SNS で拝見し、ボランティア活動を打診してコーディネートしていただいた。

松川浦周辺では屋根瓦が外れて落ちそうな状況の家屋が散見された。松川浦は観光地であるが、旅館や飲食店の被害が大きく休業状態とのことだった。お手伝いに入った民家では、風呂場の壁が落下して風呂釜が破損していたり、離れの壁が落ちていたり、家屋の被害が大きかった。

屋根瓦やブロック塀の被害は外から見てわかるが、屋内がどれだけひどい状態になっているかは実際に入ってみないとわからない。近所の方も気には掛けている様子だが、よほど親しくないとなら立ち入りはしないのだろうし、ご本人が言わなければ周りには伝わらない。そのため、地道な聞き取りが大事であると思う。

福島 152 便

2022 年 4 月 23 日(南相馬市)、24 日(相馬市)

南相馬市では屋根にブルーシートが掛かっているお宅はそれほど多くなく、復旧が進んでいるように感じられた。

南相馬市では鹿島区の社協災害ボランティアセンターで活動した。当初は県内在住者限定だったが、県外にも対象を拡大し、事前登録した団体で、活動日に陰性証明を提示できることが条件となった。南相馬市のボラセンはこの日で活動終了となり、3 月 21 日から 4 月 23 日までの 33 日間で約 300 件のニーズに対応し、延べ 1,000 人を超えるボランティアが活動した。

お手伝いしたお宅では、母屋の屋根の修繕と片づけは終わり、なんとか生活できる程度には復旧しているようだった。ただ、離れの修理には手が回らず、雨漏りで中がだめになってしまったため、すべて災害ごみとして搬出してほしいという依頼だった。蔵もあり、壁に亀裂が入っていたが、こちらも手つかずのままだった。

相馬市に移動すると道路の段差が多くなり、公共インフラの被害が大きいと感じた。ブルーシートが掛かった家屋が目立ち、崩れた屋根瓦にブルーシートすら掛かっていない建物もあった。

今回の福島県沖地震でのボランティア活動者数の統計(出典:全社協 被災地支援・災害ボランティア情報 HP)によると、5 月末までで南相馬市は県内を中心にボランティアを募集して 1,099 人、相馬市は市内のみに限定して 71 人となっており、大きな差がある。このように公的な支援が行き届かないところには民間で入っていくしかないのかなと感じている。

(補足)相馬市社協は以前に水害があったときに状況を伺いに行ったが、体制や方針は非常にしっかりされている。相馬市には、自力でできることは自力でやるという気風がもともとあり、高齢世帯など自力では難しい方に絞って対応されている。

以上